

# 日本フンボルト協会 2025年度第4回常務理事会 議事録

## 敬称略

日 時：2026年3月7日（土）15時から17時  
形 態：オンライン会議

縣 公一郎（理事長）、細野 眞（副理事長）、高山 佳奈子副理事長（関西支部長）  
田口正樹（副理事長）、香田芳樹（関東甲信越支部長）、守矢健一、卜部匡司（中四国支部長）  
須田利美（東北支部長）、高橋宗五、種村眞幸、遠藤 歩（九州支部長）、鏑田武志、山本敬三  
和田 肇（中国支部長）  
（顧問）櫻田嘉章、広渡清吾、伏木信次 事務局 関映子

### 議題：（1）2026年度総会について

総会・講演会は 2026年6月6日（土）ドイツ文化会館4階 OAG会議室にて開催。

大使も公使も都合が悪いため、ドイツ大使館 Biedermann 氏（学術部長）が現地参加で講演会を行う。演題は「Geopolitische Lagen in Europa」（仮）

（プログラム）	13:00-14:00	合同 常務理事会、理事会
	14:00-14:50	会員総会 事務協議
	15:00-16:00	講演会
	16:30-18:00	懇親会（Mahlzeit にて一部負担）

### （2）ドイツ研究留学説明会開催（3月29日）について（鏑田先生より）

日時：2026年3月29日（日）14:30-19:00

~~全体説明会 14:30-15:50

~~専門別分科会 16:00-18:00

~~子育て家族分科会 18:00-19:00

・DAAD は今年是不参加。AvH のみで開催。

・理事、常務理事も分科会に参加してほしい。

香田：「子育て支援だけではなく、子どものいない家族へのアドバイスも必要ではないか。」

鏑田：「時間的な制約がある。」

縣：「検討してほしい。」

### （3）会費の未納問題

年会費の件 1313人の会員登録（うち名誉会員が20名）、  
支払い済が535名  
残りの758名は未納  
支払い率 41パーセント（去年は37パーセント）

関：「支払率の上昇には、『13年の軌跡』が功を奏したのではないか。」

○一度も支払っていない会員 435人

○2013年の日本フンボルト協会設立の時だけ支払った会員 27人

○2025年分だけ支払っていない会員 299人

○23年、24年、25年と支払っていない会員が667人。

3年支払っていない会員の退会を検討するとしたら、残りの会員が646人となる。会員は半分近くになる。

○評議委員会を開催して、そこでも未払い会員について協議する予定。

- ・メールで連絡できない会員 100 名ほど。不達メールが多い。
- ・退会扱いにはしない。Web ページ、科研費関連のページからアドレスを手に入れることができるかもしれない。

高山副会長：「支部ごとにメールアドレスの更新作業を行ってはどうか。」

縣理事長：「新たに帰国したメンバーの情報収集も必要。」

#### (4) 日独共同研究奨学金応募の状況

まだゼロの状況 これから応募をすすめる⇒1名応募がありました。

事務局：これまで3度不採用になった応募者がいるので、6月の常務理事会に間に合うように、声がけする。

#### (5) 伊藤荒川基金の応募 1名応募

渡部正雄、京都大学 放射線診断科

応募の内容：本基金に応募して 2026 年に Essen 大学の新核医学診療棟を視察し、現地で Essen 大学の研究者と討議を行い、今後の京都大学との交流進展や共同研究の可能性を議論する。

縣理事長：「基金創設時に規定した若手に限定すると、勤務先の都合等で、応募しにくいのではないかと対象を変更する可能性もある。」

鏑田理事：「留学中も応募できるか」⇒それは財団との関係でできない。

縣理事長：「留学中は研究に集中していただく。」

#### (6) 評議員会の招集について

- ・評議員会とは直接関係なく、Max Plank の日本誘致についての話題となった。
- ・縣理事長は外部研究費の導入について議論し、EU だけでなく Humboldt 財団などの他の機関との協力可能性について言及した。

香田理事：前日にメール配付された合田会員の提案（Max Plank の日本への誘致）についての質問。

縣理事長：この提案は微妙な問題であり、テーマの絞り込みや日本側での実施方法に関し課題がある。

香田理事：合田会員の提案にあった高市政権下の学術支援について、20 億円規模の資金調達の可能性を利用する方途もあるのではないかと。

守矢理事：大学の研究自治体制への介入的な要素について懸念がある。

広渡顧問：フンボルト協会が Max Planck Institute の誘致についてなぜ議論するのか理解できない。

広渡：評議員会の運営について、理事長が会議を招集し、評議員長（選出していないのでは？）が議事を司会する形式を提案する。正式なルールを策定する必要性を指摘し、最初の会議で進め方を決定するよう示唆する。

縣理事長：諮問事項については：未納者の処遇について、外部研究費の導入について

委員会の開催予定 5月16日（土）⇒後日5月17日に決定した。

対面式（OAG 会議室）とオンラインで開催予定。

終了後、懇親会開催予定。常務理事の方で可能であれば、参加をお願いします。

#### (7) 次回の AI シンポジウム

3月21日（土）10時から12時までオンラインで開催。

「AI と文化財について」⇒ 参加は26名であった、

講演 1 : 河野俊行 会員 (九州大学高等研究院・特別主幹教授)  
演題 : 「文化遺産、デジタル技術、AI に関する若干の考察」

講演 2 : 高野紗奈江 氏 (京都大学総合博物館研究員)  
演題 : 「AI を用いた文化財解析」

司会 : 高山佳奈子 会員

●また同日 14時45分からは関東甲信越支部 2025 年度総会・講演会開催

関東支部以外の会員、DAAD 友の会、日本独文学会に連絡して講演会は聴講可能としている。  
懇親会は関東支部に限らずフンボルト協会会員、DAAD 友の会若手会員限定で招待する。  
フンボルト奨学金に興味のある研究者の同行可能。

15時から16時まで講演会  
総合テーマ : 「中世ドイツと現代の架け橋」

(第1発表者) 横山由広 会員 (慶應義塾大学理工学部教授)

演題 : 「ドイツ語の方言と中世ドイツ文学の共通語？」

(第2発表者) 香田芳樹 会員 (〈元〉慶應義塾大学文学部教授)

演題 : 「最もお手本にならない大人たち」  
— 中世説教文学から現代の子ども絵本にあらわれた反ユダヤ主義

(8) Vertrauenswissenschaftler 新任2名のご紹介 一期3年

橋本陽子 会員 学習院大学 法学部 Arbeitsrecht

深見一弘 会員 京都大学 大学院工学研究科 Elektrochemie

- ・フンボルト財団と日本フンボルト協会の関係を密にする役割。
- ・事務メールと学術メールの振り分け方に工夫が必要。
- ・文系の質問は橋本会員が担当し、理系の質問は深見会員が担当する。
- ・はじめは高山副会長が支援していく。

(9) Humboldtianer の探索

2007 年度の Humboldtianer から突然入会希望があった。協会の存在を知らなかったとのこと。  
そのため、これまで会員となっていない Humboldtianer を 2004 年まで遡って探してみることにした。  
フンボルト財団の Humboldtianer ネットワークのサイトでチェックしてみた。  
29 人ほど見つかった。連絡を取ってみる予定。入会するかどうかは別にして、フンボルト協会の存在を知ってもらい「13年の軌跡」を送る予定。  
入会を拒否している場合も当然考えられる。これまでも入会を拒否した人のリストがあるのでそれと比較しながら進める。

Forschungspreisträger についても検索する予定

(10) 支部活動については総会で報告してもらう。

\* 理事会、総会で 2025 年度の活動報告をしてもらう。  
ここでは助成金について報告をお願いします。余剰金についての考察

既定の助成金支給額の合計は 90 万円（内訳は北海道 10 万、東北 10 万、関東 20 万、  
 中部 10 万、関西 20 万、中四国 10 万、九州 10 万）  
 2025 年度の助成金支給合計は 54 万円（内訳は北海道 3 万、東北なし、関東 18 万、中部 5 万、  
 関西 20 万、中四国 2 万、九州 6 万）

### （11）銀行の代表者名義を変更している

口座名義の代表であった伏木前理事長、そして伊藤眞理事長から変更して、縣公一郎理事長を代表者にする手続きを進めている。銀行への提出資料が多い。

（現在、伏木先生名義が 4 口座、伊藤先生名義が 3 口座あります。）

縣理事長に 6 日に銀行に出向いて手続きを行う。⇒三菱 UFJ 銀行とみずほ銀行は手続き済

### （12）縣理事長からフンボルト財団訪問のご報告

Schildt さんの後任日本担当 Herr Dr. Frank Arenz と面談した。

AvH 事務総長の日本への表敬訪問を要請した。

### （13）その他

6 月 6 日総会前に 13 時から常務理事、理事会 合同会議開催

縣理事長： 総会後の理事会開催は例年は 8 月 1 日、8 月 17 日などに開催していた。

今回は 9 月の開催を提案する。

以下に評議員のリストを掲載。

《評議員のリスト》 （任期：2025 年度の総会から 2027 年度の総会まで）

《評 議 員》				
Karthaus, Olaf	Karthaus	Olaf	公立千歳科学技術大学	北海道
稲葉 馨	Inaba	Kaoru	東北大学名誉教授	東北
藤井 涉（新）	Fujii	Wataru	獨協医科大学 医学部	関東甲信越
小林 尚登	Kobayashi	Hisato	法政大学名誉教授	関東甲信越
桑原 聡	Kuwahara	Satoshi	新潟大学名誉教授	関東甲信越
大崎 博之	Ohsaki	Hiroyuki	東京大学 大学院新領域創成科学研究科教授	関東甲信越
榊原 哲也	Sakakibara	Tetsuya	東京女子大学 現代教養学部教授	関東甲信越
山名 淳	Yamana	Jun	東京大学 大学院大学院情報学環・学際情報学府	関東甲信越
中村 英樹	Nakamura	Hideki	名古屋大学 大学院環境学研究科	中部
渡部 美由紀	Watanabe	Miyuki	早稲田大学法学学術院教授	中部
平田 健治	Hirata	Kenji	大阪大学名誉教授	関西
柏木 貴久子（新）	Kashiwagi	Kikuko	関西大学外国語学部	関西
澤 芳樹（新）	Sawa	Yoshiki	大阪大学 医学系研究科	関西
清水 扇丈（新）	Shimizu	Senjo	京都大学 大学院大学院理学研究科	関西
高橋 英治	Takahashi	Eiji	大阪公立大学 大学院法学研究科	関西
梅川 尚嗣	Umekawa	Hisashi	関西大学 システム理工学部機械工学科	関西

日置 善郎	Hioki	Zenro	徳島大学名誉教授	中四国
田代 聡	Tashiro	Satoshi	広島大学 原爆放射線医科学研究所	中四国
五十君麻里子	Igimi	Mariko	九州大学 大学院法学研究院	九州
梶原 晃 (新)	Kajiwara	Akira	久留米大学 文学部	九州

(以上)